

昭和 100 年」関連施策実地レポート

このコーナーでは、内閣官房「昭和 100 年」関連施策推進室の室員が、各地で開催されている関連施策を訪問し、感想を含め皆様へご紹介します。

今回の訪問先は、福田美術館です。

展覧会「昭和 100 年記念 あの頃は ～栖鳳・魁夷・又造らが起こした昭和の風～」

URL：[昭和 100 年記念 あの頃は ～栖鳳・魁夷・又造らが起こした昭和の風～ | 京都・嵯峨嵐山 福田美術館 -FUKUDA ART MUSEUM-](#)

福田美術館（京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町 3-16）では、昭和 100 年の節目にあたり、昭和の 64 年間に描かれた 100 作品（前期後期合計）を通して、慕わしくも懐かしく、意欲と熱気に満ちた昭和の時代の風を感じる展覧会が開催されています。

美術館は京都・嵯峨嵐山に立地し、大堰川と渡月橋を一望できます。カフェが併設されており、景色を眺めながら落ち着いた時間を過ごすことができます。



中庭から大堰川を望む風景

訪問日は、令和 8 年 2 月下旬。平日の午前中にもかかわらず、多くの観覧者が熱心に展示作品や説明をご覧になっていました。

展示は、第 1 章から第 3 章まで。昭和時代に描かれた前期後期合計 100 点の作品で構成されています。



展示風景

第1章「昭和の風 ～戦前・戦中～」は、戦前・戦中の作品を展示。戦前は暮らしが和風で、床の間等へ飾るための掛軸や屏風が求められていたとのこと。日本の繊細で色鮮やかな「花鳥風月」を感じさせるとても素敵な日本画を鑑賞することができました。戦中は、ナショナリズムを昂揚させる目的から、太陽や桜、富士山といった題材が多く描かれるニーズがあったとのこと。日本らしい雄々しさを感じさせる作品にはそのような時代の影響があったことを初めて知りました。戦前と戦中の作品を見比べると、いずれも風景や自然を題材にしていますが、異なる印象を受けました。

第2章「昭和の風 ～戦後～」は、戦後の作品を展示。第1章の戦前・戦中の作品と比較し、同じ「日本画」とは思えない程、作風が大きく変化していることがわかりました。敗戦の体験から日本画を否定する逆風のなか、若い画家たちは新たな挑戦を行ったとのこと。パネルの説明に沿って第1章と第2章で見比べると、同じ作家とは思えない程、繊細に描写する作風から、輪郭線が無くどちらかというとぼんやりとした抽象的なタッチの作風に大きく変化しています。写真ではわかりにくかったのですが、間近で見ると、塗り重ねや画材の特徴による立体的で重厚な技法により、モチーフを幽玄に表現していることが感じられました。

第3章「池田遙邨と富田溪仙～嵐山にも昭和の風が吹く～」は、福田美術館の所在地である嵐山の風光を愛した2人の画家の作品により、嵐山の「あの頃」を感じさせる展示となっています。

作品1つ1つに、画家のプロフィールや表現技法、込められた思いや、見どころをわかりやすく表した「キャッチフレーズ」などが記載された解説パネルが用意され、作品が制作された時代背景が分かるよう、歴史的な出来事などを説明したパネルも併せて設置されており、美術や歴史に詳しくない方でもわかりやすく関心をもって鑑賞できるような配慮が施されていました。

福田美術館のコレクション方針のとおり、直感的に感動できる素敵な作品が多く展示されており、嵐山の眺望とも相まって、日本の自然や風物の良さを改めて感じる事ができました。また、「日本画」の作風の移り変わりを通し、社会の変化の影響を受けつつも遅く昭和の時代を生きた作家たちの苦心と情熱を感じとることができました。

会期は4月12日まで。3月4日からは、後期の作品が展示されています。

会期：令和8年1月31日（土）～令和8年4月12日（日）

主催：福田美術館

住所：京都府京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町 3-16